

『大原社会問題研究所雑誌』 2025 年度総目次

- (1) 2009～2024 年度の総目次については各翌年度 4 月号を参照されたい。
- (2) 『資料室報』第 1 号～『大原社会問題研究所雑誌』第 599・600 号までの総目次については、2008 年 10・11 月号 (No.599・600) を参照されたい。
- (3) なお、大原社会問題研究所 Web サイト (<http://oisr-org.ws.hosei.ac.jp/oz/>) でも、バックナンバー総目次を掲載している。さらに、1997 年 4 月号以降については、雑誌本体のオンライン・ジャーナル化 (Web 上での公開) を行っている。

2025 年 4 月号 No.798

【特集】第 37 回国際労働問題シンポジウム 新たな社会契約に向けて	
特集にあたって	鈴木 玲
2024 年第 112 回 ILO 総会について	
総会の概要	高崎真一
政府の立場から	秋山伸一
労働者の立場から	則松佳子
使用者の立場から	長澤恵美子
SDGs の達成に向けた取り組みを加速化するために、何ができるか	
企業の社会的責任はどう問われてきたか——ドイツの事例から	田中洋子
ESG、インパクト投資と企業開示	小木曾麻里
ディスカッション	
■資料紹介	
環境アーカイブズと所蔵資料	渡邊麻里・玉土大悟 武内 保
■書評と紹介	
吉田誠著『戦後初期日産労使関係史』	久本憲夫
法政大学大原社会問題研究所／榎一江編著『無産政党の命運』	中村 元
小笠原信実著『韓国における公的医療保険と財政』	松田亮三
田中洋子編著『エッセンシャルワーカー』	禿あや美
マシュー・デスモンド著／栗木さつき訳『家を失う人々』	岡田徹太郎
社会・労働関係文献月録	
『大原社会問題研究所雑誌』2024 年度総目次	
月例研究会	鈴木健吾
国民的建築学から「まもる会」へ——都市計画学者・西山卯三の高度成長期	
所報	2024 年 12 月

2025 年 5 月号 No.799

【特集】東西冷戦下の社会主義ドイツ——政治、経済、社会	
特集にあたって	進藤理香子
国民戦線とドイツ統一問題 (1953～1955)	河合信晴
——「ソ連覚書提案」以降における東ドイツ住民のドイツ統一意識	
東ドイツ社会主義工業化にまつわる三つのエピソード	白川欽哉
——社会主義の夢と現実：アイゼンヒュッテンシュタットの事例から	

矛盾に満ちた国への回顧——社会主義ドイツに生きた生活者の視点から	フランク・リースナー ／齋藤正樹訳
ドイツ社会主義統一党中央委員会付属マルクス・レーニン主義研究所と日本人 ——向坂逸郎と社会主義協会による1965年のソ連・東ドイツ訪問から	進藤理香子
■論 文	
滞日ムスリムによる結社活動の再検討——利他性の起源をめぐって	高橋真央
■書評と紹介	
江原慶著『マルクス価値論を編みなおす』	河村哲二
社会・労働関係文献月録	
月例研究会 「響けわれらが声——法政大学大原社会問題研究所所蔵ポスターから見る戦後の労働者 像」ギャラリートーク	鈴木貴宇
所報	2025年1月

2025年6月号 No.800

【特集】公契約をめぐる理念と実践——日本と英国の事例から	
特集にあたって	惠羅さとみ
公契約条例の制定、公契約適正化の取り組みを広げるために ——北海道での実践、調査・研究に基づく試論	川村雅則
日本における公契約——公契約条例制定の意義と課題	永山利和
自治体公共調達の日英比較——ガバナンス論からの示唆	原田晃樹
■論 文	
カテゴリーの交差に現れる居住支援の課題——住宅確保困難事例の分析から	高橋麻美
■書評と紹介	
中原雅人著『自衛隊と財界人の戦後史——支援ネットワークの形成とその意味』	菊池信輝
社会・労働関係文献月録	
所報	2025年2月

2025年7月号 No.801

【特集】失対労働者とその運動（1）	
特集にあたって	榎 一江
戦後失対労働者調査の意義と明らかにされた事実 ——通底し続けていた「社会階級・階層」分析方法とその分析帰結	白井邦彦
全日本自由労働組合と在日朝鮮人 ——北朝鮮帰国事業・日韓会談への対応を中心に	杉本弘幸
戦後初期東京における失業対策事業と失対労働者運動 ——求職闘争（職安闘争・職よこせ）を中心に	町田祐一
■研究ノート	
戦傷者の生活と行政支援 ——1970年代岡山県における巡回相談事業の役割を中心に	山下麻衣・藤原哲也・ 今城 徹
■書評と紹介	
ジョアン・C・トロント著／岡野八代監訳 『ケアリング・デモクラシー——市場、平等、正義』	後藤浩子

嶋崎尚子・中澤秀雄・島西智輝・清水拓・張龍龍・笠原良太著 『台湾炭鉱の職場史——鉱工が語るもう一つの台湾』	福本 寛
藤本隆宏編『工場史——「ポスト冷戦期」の日本製造業』	金容度
社会・労働関係文献月録	
月例研究会 大原ネットワーク踏査記録, および学会活動報告	榎 一江
所報	2025 年 3 月

2025 年 8 月号 No.802

【特集】失対労働者とその運動 (2)	
ある女性失対労働者の, 都市と労働の経験——〈貢献〉と〈搾取〉の歴史像を越えて	西井麻里奈
1950 年代の「ニコヨン」映像文化史	鷺谷 花
1950 年代中期地方都市の失対事業・失対労働者運動——新潟市を事例に	中村 元
■書評と紹介	
愼蒼宇著『朝鮮植民地戦争——甲午農民戦争から関東大震災まで』	伊藤俊介
山森亮著『忘れられたアダム・スミス——経済学は必要をどのように扱ってきたか』	板井広明
有馬学著『戦後』を読み直す——同時代史の試み』	鈴木健吾
栗田梨津子著『新自由主義時代のオーストラリア多文化社会と市民意識——差異を超えた新たなつながりに向けて』	塩原良和
社会・労働関係文献月録	
月例研究会 2024 年度国内研究員研究活動報告	藤原千沙
所報	2025 年 4 月

2025 年 9・10 月号 No.803・804

【特集】社会問題としての気候変動	
特集にあたって	鈴木 玲
エコロジー的近代化の展開と課題 ——日本のグリーン成長戦略と GX2040 ビジョンの批判的検討を通じて	加藤里紗
気候変動と地域経済社会 ——地域の中の企業の応答から解読する「地域脱炭素」のリアル	茅野恒秀
洋上風力発電開発における漁業共生フレーム・地域貢献フレームと地域社会の応答	西城戸 誠
ブラジルにおける気候危機と環境運動——運動の知はいかに引き継がれたのか	舛方周一郎
■論 文	
生活保護制度における「第二次適正化」政策と地方自治体 ——佐賀県を事例として	平 将志
■講 演	
『二村一夫著作集』をめぐって 二村先生の学問と私 トマス C. スミス労働史と二村労働史・再論 リプライ	アンドルー・ゴードン 大島真理夫 二村一夫
■書評と紹介	
ベアタ・ボホロディッチ著／小熊英二, 木下ちがや訳・解説 『連帯の政治社会学——3.11 後の反原発運動と市民社会』	佐藤圭一
法政大学大原社会問題研究所 2024 年度の歩み	

社会・労働関係文献月録	
月例研究会 日本社会党と安保改定	濱砂孝弘
所報	2025年5・6月

2025年11月号 No.805

【特集】「全世代型社会保障」政策における「少子化対策」の批判的検討	
特集にあたって	北 明美
異次元の少子化対策のジェンダー、市場 ——こども誰でも通園制度と男性の育児休業促進をめぐって	萩原久美子
社会保障財源としての消費税と保育の社会保険化の批判的考察	伊藤周平
「子ども・子育て支援金」が子育て支援策と社会保障にもたらす変質と矛盾のゆくえ ——こども未来戦略・加速化プランの異様な費用負担構造	北 明美
■書評と紹介	
Pierre Vernus, Manuela Martini and Tomoko Hashino (eds.), <i>A Global History of Silk: Trade and Production from the 16th to the Mid-20th Century</i>	阿部武司
永瀬伸子著『日本の女性のキャリア形成と家族』	鈴木恭子
社会・労働関係文献月録	
月例研究会 ILO100号条約第3条第3項の不審な政府公定訳（1967年）と混迷する解釈からの諸論点	遠藤公嗣
所報	2025年7月

2025年12月号 No.806

【特集】戦後80年 加害の記憶と追悼・継承をめぐる現在地（1）——歴史認識・歴史教育	
特集にあたって	愼蒼宇
書籍の出版状況からみる現代日本の歴史修正主義 ——日本の戦争犯罪とそれに対する日本人の歴史認識	山田 朗
「歴史総合」は、どのような内容で、加害の教育をどう扱っているか	鈴木敏夫
自治体刊・郷土史本における朝鮮認識の問題について ——富山県の電源開発現場の記述・記録を手掛かりに	村上邦夫
■論 文	
なぜ福祉縮減下で重度訪問介護が成立したのか ——支援費・介護保険統合推進下の非難回避と公共的相互性	高阪梯雄
■書評と紹介	
ウェンディ・マツムラ著／増渕あさ子、古波藏契、森亜紀子訳 『生きた労働への闘い——沖縄共同体の限界を問う』	平野克弥
三家本里実著『AI時代の労働の自律性と資本の統制』	鈴木和雄
土屋礼子著『占領期のメディアとインテリジェンス』	井川充雄
社会・労働関係文献月録	
月例研究会 植民地期朝鮮済州島の社会経済構造と戦時期の展開	金功熙
所報	2025年8月

2026年1月号 No.807

【特集】戦後80年 加害の記憶と追悼・継承をめぐる現在地(2) ——博物館・資料館・記憶追悼運動の歴史と継承	
市民による市民のための高麗博物館	戸田光子・萩原みどり・加藤 真
長崎人権平和資料館の歩み	新海智広
筑豊の在日朝鮮人をめぐる記憶・追悼・継承——金光烈, 横川輝雄の足跡をめぐって	朴康秀
■書評と紹介	
安周永著『転換期の労働政治——多様化する就労形態と日韓労働組合の戦略』	李旼珍
田中佑弥著『学校に行かない子どもの社会史——不登校とフリースクールの源流』	平塚真樹
杉本弘幸著『ヨイトマケとニコヨンの社会史——戦後失業対策事業・失対労働者研究序説』	大西祥恵
濱砂孝弘著『安保改定と政党政治——岸信介と「独立の完成」』	長谷川隼人
社会・労働関係文献月録	
月例研究会 ケアの政治思想史——20世紀初頭アメリカにおける女性, 福祉, 政治	小野寺研太
所報	2025年9月

2026年2月号 No.808

【特集】戦後80年 加害の記憶と追悼・継承をめぐる現在地(3) ——戦時強制動員をめぐる研究の課題	
マーシャル諸島に強制動員された朝鮮人の「玉砕」と「叛乱銃殺」	竹内康人
解放直後の朝鮮女性運動にみる植民地「公娼制」と日本軍「慰安婦」制度に対する歴史認識	李玲実
■研究ノート	
仕事と不妊治療の両立——夫妻での取組を中心にして	乙部由子
■書評と紹介	
那波泰輔著『「わだつみ」の歴史社会学』	福間良明
堀場純矢著『児童養護施設の労働問題』	板倉香子
岩田正美著『私たちの社会福祉は可能か』	桜井啓太
法政大学大原社会問題研究所／進藤理香子編著 『日本とウクライナ 遠くて近いパートナー ——歴史・挑戦・未来』	平野達志
社会・労働関係文献月録	
月例研究会 新刊紹介 法政大学大原社会問題研究所／進藤理香子編著 『日本とウクライナ 遠くて近いパートナー ——歴史・挑戦・未来』	平野達志
所報	2025年10月

2026年3月号 No.809

【特集】ノンエリートの自立の現段階	
特集にあたって	栗原耕平
ノンエリートの自立と手に職・資格戦略	小澤浩明
夜間定時制高校と移民青年——ノンエリート青年研究の視点から	谷川由佳
40歳になった高卒女性の現状から見る日本社会の課題	杉田真衣

■書評と紹介	
大澤広晃著『善意の帝国——イギリスのフィランソロピーと南アフリカ』	前川一郎
大沢真理著『生活保障システムの転換——〈逆機能〉を超える』	高端正幸
Eric Blank, <i>We are the Union : How Worker-to-Worker Organizing is Revitalizing Labor and Winning Big</i>	鈴木 玲
社会・労働関係文献月録	
月例研究会 「革新主義時代」のフェミニズムと「家政学」——無償労働とジェンダー平等	原 伸子
所報	2025年11月